◎岐阜県居合道伝達講習会

香村　茂

令和五年九月二十四日、岐阜市総合体育館において五十二名の参加を得て伝達講習を実施した。午前中は全日本剣道連盟居合の礼法から十二本目までを居合道解説書と新しく居合道委員会から出された「指導上の留意点」を参考にして矢澤教士七段の演武、香村の解説で実施した。

解説のあと全剣連居合の実技指導は勝敗の判定基準を考えた稽古をするように、また居合道解説書には、高さ、角度、方向など詳しく記載されているので、基本に戻って全剣連居合の一本目を十分に稽古するように指導しました。

午後から審判実技講習を六・七段の十二名で試合者・審判員を交互に実技指導した。旗の表示要領、交代の仕方など、特に七段は県外の大会で審判をする機会が多いので審判の正しい動作、態度を繰返し講習しました。

◎第五十四回東海四県対抗居合道大会

監督　志津野　泰幸

令和六年三月三日、愛知県千種スポーツセンターにおいて、第五十四回東海四県対抗居合道大会が開催された。

審判・監督会議において前・受け流し・諸手突き・添え手突き・四方切りが指定された。第一試合は前年度優勝の愛知県戦。初戦ということもあり、どちらも硬さが目立つ戦いであったが岐阜県の勝ち数は副将、大将の二名という厳しい戦いとなった。第二試合の三重県戦は四将までは五分の戦いであったが、三将が敗退し後がなくなる厳しい展開も、続く副将、大将が危なげない戦いぶりで勝利した。残る第三試合は二位を賭けての静岡県戦。全員が思い切った業前で善戦したが旗本数二本の僅差で惜敗した。

顧みれば、平成十四年岐阜県主催の第三十一回大会に生意気にも小生弐段の分際で先鋒として出場させていただいてから二十余年。以来当県は優勝から遠ざかっている。今大会の試合内容を細やかに分析すると四県の実力は拮抗しており、勝敗の分かれ目はわずかな差であると思われる。選手の方々には来年度の当県主管大会に向けて以下の三点を挙げるので、今後の課題として頂ければ幸甚である。①力強い『抜き付け』『抜き打ち』『切り付け』。②『動』から『静』への微動だにせぬ俊敏な切り替えと体の切れ。③仮想敵に対する激しい気魄。

文末ながら一二月より三か月にわたり毎週の強化稽古に参加し真摯に取り組んでいただいた強化選手の方々、指導に当たっていただいた審判員の先生方、また特別講師としてご指導賜りました香村先生、参川先生、辻先生に深謝申し上げます。

事務局だより

令和五年度全剣連表彰

剣道の振興に寄与したとして、次の方・団体が全剣連より表彰されました。

剣道有功賞

○篠原　紘一　先生

剣道教士　七段

岐阜県剣道連盟常任理事や中津川剣道協会会長を歴任し、岐阜県剣道連盟相談役の役職に就くなど、長年にわたり岐阜県の剣道界発展のため、寄与されました。

また、地域においても、少年から大人に至るまで、幅広い層に対し、剣道指導を行うなどその功績は大である。

少年剣道教育奨励賞

○稲羽東剣道少年団

ア　活動期間　昭和五十七年九月～現在

イ　会員数　指導者五人・少年十九人・高校生一人

ウ　基本稽古を主に活動を続けている。特に、剣道を通して人を思いやる気持ちを持たせ、健全な身体、辛いことでも耐え忍ぶ強い精神力を養うことを目指すとともに、地域社会に貢献できる一員になれるよう活動している。

エ　活動日数　週二回（月・土）

○大垣市東部剣道スポーツ少年団

ア　活動期間　昭和五十六年四月～現在

イ　会員数　指導者三人・少年五人

ウ　剣道修練を通じて、武道として、礼儀を重んじ、心身を鍛え技を磨き、健康な身体と健全な心を持った青少年の育成に努めるとともに生涯スポーツとして続けることを目的に活動している。

エ　活動日数　週二回（火・木）

○中野方少年剣道クラブ

ア　活動期間　昭和六十年四月～現在

イ　会員数　指導者二人・少年二十二人・高校生三人

ウ　剣道を通じ心身の鍛錬と健全な育成を目指し、地域に密着した活動を続けている。

特に、基本稽古を中心に、集中すること、努力することを指導方針としている。

エ　活動日数　週二回（木・土）

訃報（敬称略）

★田中　春雄（剣道教士七段）
岐阜県剣道連盟元常任理事
令和5年5月3日　ご逝去（86才）

★河野　勝彦（剣道教士七段）
岐阜県剣道連盟揖斐支部長
令和6年1月4日　ご逝去（79才）